青梅きもの博物館

青梅きもの博物館は、築 200 年の蔵の中にあります。ここでは、皇室の式典用の着物など、500 点以上にのぼる貴重な伝統衣装が保管されています。コレクションの多くは、季節に見合ったものが展示されています。

常設展示には、1915 年の大正天皇即位式に梨本宮（1874～1951 年）と伊都子妃（1879～1977 年）が着用した皇室衣装や装飾品が展示されています。これらの衣装には、皇族のみが着用したデザインや色を見ることができます。当時の写真やイラストからは衣装を文脈の中で捉えることができ、このような正式な行事をより良く理解することができます。

皇族の中には、独自のモチーフを持つ方々もいます。来場者は上皇后の美智子様（1934～）が所有されていた、美智子様独自のモチーフである白樺の記章が施された小さな布を見ることができます。

他にも、侍、貴族、商人といった異なる階級の人々が着用していた、社会的身分による着物も展示されています。ここにあるコレクションは幅が広く、貴族の娘が来ていた正装用の豪華な刺繍が施された着物に加え、将軍・徳川家康公（1543～1616 年）の家来が着用していた青と白のシンプルな衣装なども揃っています。

青梅きもの博物館は、金曜日、土曜日、日曜日の午前 10 時から午後 4 時まで、あるいは予約により開館しています。（12 月から 2 月は閉館。）